

都市計画マスタープランへの 提 言

平成12年12月22日

四日市市まちづくり市民円卓会議

目次

はじめに	提言への取り組み	1
第Ⅰ章	生活者の視点に立つまちづくり	5
	(1) 私たちの望むまちづくり	6
	① 協働によるまちづくり	6
	② 合意形成によるまちづくり	7
	③ 市民参加とその継続	8
第Ⅱ章	これからの生活像とまちづくり	9
	(1) 私たちの生活像	10
	① 子どもの世代	11
	② 子育ての世代	14
	③ 壮年の世代	17
	④ 高齢の世代	19
	(2) 望ましい生活環境	21
	① 自然と緑	22
	② 環境	26
	③ 移動	28
	④ 都心・交流	31
	⑤ 資源再生、歴史・文化	34
	○ 確認作業	36
	① 調査の概要	36
	② 調査の結果	37
第Ⅲ章	提言と都市計画マスタープランへの反映	39
	(1) 理念への反映	40
	(2) 策定プロセスへの反映	41
	〈四日市まちづくり市民円卓会議について〉	43
	組織と委員の委嘱	44
	活動の経過	45

はじめに

提言への取り組み

●市民円卓会議の役割

円卓会議メンバー12名は、平成11年2月6日に四日市市長から「四日市まちづくり市民円卓会議（以下、円卓会議）」の委員委嘱状を受け取りました。市民の代表として「都市計画マスタープランを策定するにあたり意見を述べる。市民から提案された意見について、反映させるものを評価し、提言する」役割が期待されました。しかし、市民から出された意見を評価するためには、評価のモノサシをつくる必要があります。与えられた役割を果たすために、検討すべきことは無数にありました。そこで、四日市市の進めてきた都市計画について学習を深めながら、円卓会議において検討すべき内容を絞り込み、提言するまでのプロセスを明確にすることから、私たちの仕事は始まりました。

●円卓会議の進め方

円卓会議には、子供を育成する文化活動に長くかかわってきたもの、ホームヘルプや環境ボランティアの経験が豊かなもの、若いサラリーマン、主婦、農業に真剣に取り組むもの、子供の視線から地域資源を学習環境として再発見する活動を展開しているものなど多分野から委員が参加しています。まず、各委員の関心事を知り、まちづくりに関する問題意識を共有する必要がありました。

第2～3回において、四日市市の環境あるいは都市計画に関する意見を自由に発表し合い、四日市という都市がもつ生活環境の特徴や問題点などを整理しました。

第4～5回では、さらに幅広い視点からの意見を出し合い、四日市のまちづくりを考える上でのテーマ、注目すべき地区を選び出す作業を行いました。第7回では、作業結果をもとに円卓会議が検討すべきテーマの絞り込みを行いました。その結果、生活者の視点から私たちが実感を持って検討できる、あるいは検討すべきテーマは、緑、移動、環境、社会の仕組み、資源再生、ゆとり、都心、交流、歴史の9つに絞り込まれました。そして、以降、テーマ別にまち



づくりの目標イメージと実現手段などを検討することが合意されました。

この間、市役所の都市計画課では都市計画マスタープランの全体構想（素案）について地域説明会や各種団体への説明会を実施し、市民や団体からたくさんの意見を聴取していました。市民や団体の意見に逐一評価を加える方法よりも、第2～7回の円卓会議の中で、私たちが検討した意見に市民や団体からの意見を加え、市民の意見として包括的に扱い、テーマ別に検討する方法が妥当であると判断されました。

従って第8回は「緑、水、環境」、第9～10回は「移動、交流、都心」、第11回は「資源、再生」「文化、歴史」、第12回は「社会の仕組み」をテーマとして、事務局から資料や情報提供を受け、客観的事実や技術的事項の理解も深めつつ、市民意見を整理しながら、テーマの達成に必要な事項の抽出、目標イメージを検討しました。

●望ましい生活像の設定

これらテーマ別の検討は、対象が具体的であり、目標イメージが描きやすいという利点がありますが、生活という視点に立つとやや総合性に欠ける点があったので、第13・14回では「小学高学年・中学生世代」「幼児から小学生低学年の子供を持つ子育て世代」「子育てを終わった壮年の世代」「第2の人生を歩み始める60歳前後の世代」の4つの世代をモデル的に想定し、各世代がいきいきと暮らせるための条件として、①緑、②環境・水、③移動・交流、④都心、⑤資源再生・歴史文化から必要なものを抽出し、横断的に整理しました。第15回では前回の検討をさらに深め、各世代の望ましい生活像をまとめました。



●調査と検証

これらの作業を進める中で、四日市のまちづくりを考える上で常に私たちの関心をひきつける場所として港を含む都心がありました。そこで、第6回では港巡視船「かもめ」に乗り、洋上から四日市を眺め、水辺の魅力、海が感じられない都心の問題点などを体験的に学習しました。

また、第17回には、テーマ別検討結果を検証するために、「緑」に関する資源として里山や市街地の公園、「歴史文化」に関する資源として旧東海道の町並みを評価し、私たちの目標イメージを実現するために必要な施策や市民の利用マナーなど社会の仕組みについても検討を加えました。私たち市民もまちづくりの学習を深め、行政と適切な協力関係を築くことによって、まちづくりにとって有用な提案ができることが実感されました。

●生活者の視点にたった円卓会議からの提案

市長から付託された役割を果たすために、円卓会議は市民・生活者の視点から検討すべき事項やプロセスを検討してきました。産業や経済からみたまちづくりという観点が欠けているのは、以上のような理由によります。しかし、私たち市民の想いを、行政の適切な情報と技術的援助を受けつつ、まちづくりに関する学習を深めることによって、生活者の視点に立った提言としてまとめることができました。

このように私たち市民と行政が協力して取り組んだ円卓会議の作業プロセスも、今後、市民と行政が進めるまちづくりのあり方として提言に加えたいと思います。